NORC だより

昭和45年 第3号

昭和45年12月15日発行

発行人
海事思想普及委員会
東京都港区芝虎ノ門15(虎ノ門ビル7階)
電話・東京03（503）6014 〒105
社団法人 日本外洋帆走協会

巻頭言 ヨット界の向上のために

――諸先輩の一考を煩わしたい――

古屋 徳兵衛

最近のクルーザーの増加は目醒ましい。十年前には全く想像も出来なかった繁昌振りである。我々にとってはまことに嬉しい限りである。山と海との間の帯状の狭い土地に一億の人間がひしめき合っているこの陸地から離れて、大海原に喜びを見出すことを知った人間は幸福だと思うし、今後この傾向は一層盛んになるであろう。

ただクルーザーの歴史の浅い日本での急激な膨張が、何時か思わぬ事故の発生に連がりはしないかと心配になる。セーリングボートはモーターボートと違って何も知らぬ人が直ちに運航出来るものではないが、急激な膨張はやはり訓練の浅さを招く恐れがある。

NORCは、その名の通りオーシャンレースを中心にし、これを軸として艇の性能の向上や乗員の技術の向上に努力してヨット界全体の水準を上げる事がその目的である。NORCに入っている人々は、レース派であろうと、ブルーウォーター派であろうと、NORCの厳格な統制指導の下にあるからよいが、NORCに入らないクルーザーも今後は一層増加して行くだろう。レースに出るのではなくクルージングだけを楽しもうとする人々にも、それ相応の技術の向上と安全を図る能力がなければならないが、現在の日本では一体誰がその世話をするのだろうか。

こうした人々を掌握することはNORCの仕事ではないと思うが、之を単に各所のヨットクラブに委せるだけでは、各クラブの能力や責任の差が大きすぎる現状では必ずしも安心だとは云い切れない。ヨットクラブと云っても愛好者達の作っているものは、ハーバーもクラブハウスも持っていないのが多い。ヨットハーバーとクラブハウスを備えたヨットクラブは、日本では殆んど営利企業のものである。企業である限り採算第一であることは当然である。従って技術の向上とか艇の安全性とかは第二義的となり、それ程強い関心は払えない。企業である限り、ヨットハーバーやクラブハウスは経営のPRの為めの施設で、之を材料にして土地やマンションの売却を有利にし、或はホテルやレストランの繁昌を期待するのは当然のことである。

現在のこうした施設の運営を見ていると、さすがに今迄のものは、企業側とクラブメンバーとの協力によって相当な配慮が払われて居り、ヨット界の向上に大きく寄与して居ると思われるが、今後続出するであろう埋立地分譲を含むヨットハーバー等の中には、手離しでは安心出来ないものが多いような気がする。一体これを今後どうしたらよいのだろうか。諸外国の例も沢山あることだろうと思うので諸先輩の一考を煩わしたいと思う。

（NORC副会長・関東支部長）

伊良湖沖救難訓練を実施して

——東海支部発足以来の壮観——

伏原　幹一郎

この総合訓練の企画が提案されたのは、昨年支部常任委員会の席上、今年度（'70年度）のレース日程を検討する際であった。

角田支部長から、支部所属の全艇が年に一回は一堂に会する機会を作り度い、又、例年鳥羽レースは鬼崎フリートのポイントレースとなっているが、之を支部レースへ移してはどうか、といった諮問があり、各フリート（鬼崎、衣浦、蒲郡、鳥羽）から一番集り易い、そして各フリート基地スタートのポイントレースのフィニッシュとして望ましいのは何処かと云うことになり、伊良湖港がよいのではないかと自然に結論が出た。そこで安全委員長（今関）から意見があり、今年は安全委員会の行事の一つで小牧航空自衛隊の基地見学を行い、救難態勢、救難機材を見聞することが出来たが、今度はその伊良湖港での全艇集結の時に、実際の救助訓練を実行出来ないだろうか、と云うことになった。勿論全員賛成でスケジュールに折込もうと云うことになり、折角年1回の機会であるので、より充実した内容にしたいという期待もあり、日程は10月の10、11日の連休日とし、各フリートからのポイントレース フィニッシュ後、救難ヘリコプターの見学、港外での航空自衛隊ヘリコプター、海上保安部巡視艇協力の総合救難訓練、続いて港内では各艇安全備品のデモンストレーション、夜は伊良湖観光センターでのパーティーと実行案のアウトラインがまとまった。

早速支部長からは航空幕僚監部および海上保安部へ、安全委員長からは現地航空自衛隊の方へ働きかけてもらうこととなり、協力を受けられる可能性は十分とのことであった。その後期日が迫るに従い、支部長始め各担当委員は、関係先へのお願い、具体的な打合せと忙しくなった。支部内での打合せも数回持たれ、その時一番心配になったのは、何しろ初めての試みであり、果して何艇参加出来るだろうか、何名集るだろうかと云う事であった。そこで各フリート、キャプテン、各セーリンググループのリーダーが手分けをして部内PR、勧誘は勿論、広く当海域のNORC未加入の艇も含めて働きかけることとなった。海上保安部との打合せ会では、保安部の方も大変な熱の入れ様で、専ら御厄介になる方のヨット乗りとしては、この船乗り仲間の暖い気持の通じ合いは本当に嬉しいことの一つであった。一方安全委員長はじめ各委員も小牧救難航空隊との詳細な実施細目の打合せ、又、伊良湖観光センターとパーティーの接渉と東へ西へ（正確には北へ南へ）と大車輪の働き振りで漸く準備が終ったのは、本当に期日間際の10月に入ってからであった。

いよいよ訓練当日、伊勢湾の鬼崎フリートからはレース参加艇、バッカニア、鯱、ネービーブルーII、うずしお、零、サナル6艇の00：00スタートと前後して、計15艇が出港、夫々伊良湖港を目ざす。時々雲にかくれる円い月に星が美しい。このまま天気がもってくれるだろうか？　風力は1～2で少々不足だが気持の良い夜のクルージングだ、三河湾の蒲郡フリートではレースをとりやめ、早朝フリートを組んで出港となった模様、衣浦フリートは一番近い大井港から参加となる。

鬼崎からの艇は早朝4時頃から次々と伊良湖港へ入港、天気予報では気圧の谷の東進で前線が下がり、ぐづついた雨模様となると云う。一番気掛りだった空模様も、東海上の高気圧の勢力が未だ残ったが、朝日の輝く明るい青空の絶好の訓練日和りだ。7時、ファーストホーム。バッカニアがスピンを下しながら入港して来る。続いて時間を置いて同じく鯱、零、ネービーブルーII、うずしお、サナルの順でフィニッシュ入港する。港内では各艇フェリー桟橋に船首を揃えて接舷、色どりにぎやかに船飾をほどこし、和気靄々たる交歓風景があちこちで出現、この盛観に伊良湖・鳥羽をむすぶフェリーの乗客等も目を奪れている様子、東海地方のクルーザーシットの存在を一般にPR出来る絶好の機会で、ちょっと胸を張りたい気持にもなる。

9時半、支部長は訓練参加各艇々長、バッカニア（日比）、うずしお（各務）、ネービーブルーII（天野）、鯱（柴田）、零（古橋）、プチ・プランス（伏原）を招集、訓練実施につきかねての計画打合せ通り、総指揮角田支部長。塔乗の巡視艇“きよしも”の檣頭に信号旗「1」で第1訓練発動、プチ・プランス出火想定。ライフラフトを下し乗組員離脱、ヘリコプターにて釣上げ救助。信号旗「2」で第2訓練発動、巡視艇“みやかぜ”より放水、プチ・プランス消火作業、信号旗「3」で第3訓練発動、バッカニアより乗組員2名海中に落水“みやかぜ”のゴムボートで引揚げ救助、信号旗「4」で第4訓練発動、Aグループ、うずしお、ネービーブルーII、プチ・プランスは“きよしも”、Bグループ、バッカニア、鯱、零は“みやかぜ”により曳航訓練を受ける、当該各艇は、旗、鏡、発煙筒、信号焔等で救助信号を行い救助を求める等、事前の再確認と諸注意事項指示さる。出港は12：00、訓練開始は13：00と決る。10：45、航空自衛隊小牧基地よりヘリコプター飛来、訓練らしい雰囲気と

落水者救助

なる。ヘリコプターは岡田一尉、今関安全委員長等の発煙筒を使っての誘導で、前以て石灰マークで準備した岸壁所定位置へ見事着陸する。各艇の希望者はヘリ見学。隊長勝山三佐、機長福山一尉より救難ヘリコプターの装備、海上に於る救助方法につき、詳しい説明を聞く。続いて巡視艇“きよしも”“みやかぜ”も到着。いよいよ訓練気分は昂揚する。一方、三河フリートの到着やや遅延の無線連絡あり（同フリート内タレットＪＡ２ＰＦＳと在伊良湖ＪＡ２ＰＤＳとの交信による）港外にて合流することになり、プチ・プランスにはヘリコプター釣上げの為、自衛隊員１名乗り込み、予定通り12：00揃って全艇出港する。訓練海域伊良湖港燈台Ｎ1.5nm へ向う。途中プチ・プランスＪＡ２ＳＪＭよりアマチュア無線２ｍバンドを用いて訓練非常通信により救難連絡を電話依頼の為陸上一般アマチュア局を呼出すも応答得られず残念。傍受艇タレット、ＪＡ２ＰＦＳにより発信の確認はされており、矢張りワッチ局が必要なのだろうか？　このころより三河湾フリートの17隻は北方に現われ、順次現場到着。計32隻の陣容となる。12：45、自衛隊ヘリ、我々の上空へ飛来。ここで若干事前打合せのギャップあり、ヘリのホバリング性能、航続時間の関係からヘリ降下角度を決める為、直ちにライフラフトを投下し、ラフト上にて発煙信号を用い、風向を示す様要請あり。巡視艇搭乗の支部長とＣＢトランシーバーにてこの旨連絡指示を得んと懸命に呼出しを行うも混信、周囲雑音等にて交信不能、この時（12：50）漸く巡視艇出港、全速にてこちらへ向うを認め、止むを得ず第１訓練発動を待たずして信号焔点火、ＮＣ旗を揚げ、ライフラフトを投下展張し、自衛隊員と共にプチ・プランス乗組員（隅谷）艇より離脱する。ラフト上にて発煙筒点火、ヘリコプター風下よりライフラフトに接近するもホバリング仲々安定せず、１回、２回と反復を試みる。この頃巡視艇も到着。放水、消火訓練開始（この間巡視艇より再三ラウドスピーカーによっても指示ありたるも、殆ど了解出来ず。確実な艇間通信のむづかしさを痛感する）３回目の接近にてホバリング高度６～７ｍで安定し、ライフラフトより自衛隊員釣上げられる。その後ヘリ上空を旋回、機上からは手を振りつつ帰投する。引続き第３訓練発動にて、バッカニアより乗組員２名、ライフジャケットを着け海中へ飛込む。少時漂流の後“みやかぜ”から下されたゴムボートにより、無事引揚げられ収容さる。第４訓練発動（訓練とはいえ無我無中、この頃漸くやや落着く）で曳航訓練に移り、バッカニアは“みやかぜ”よりもやい銃発射。もやいを引込み曳航開始、“みやかぜ”ーバッカニアー鯱ー零の順で曳航、“きよくも”も同様もやい銃を発射、うずしおーネービーブルーⅡープチプランスの順で曳航、伊良湖港に向う。速力約５ノット。港外にてもやいを離して訓練を終了する。13：30、大分時間が経過した感じであったが、こんな時間であった。全艇入港、休息をとり、15：00より訓練反省会が開かれ、支部長から『初めての総合訓練としてはまあまあの良い出来であった』との講評を頂いたが、今度で一番痛感された事は有事の際、艇と艇との通信連絡が殆ど不能に近いと云うことであった。安全対策上からも今後の研究課題であろう。又、海が穏かで好天に恵まれ過ぎて、訓練艇に於ても遭難を想定しての実感に乏しかった為か、ライフジャケットさえ着けず見物気分の乗組員の見掛けられたのは、やや点晴を欠いた点だった。安全委員長からは、今度の経験を生かして、

伊良湖港中央桟橋をいろどる鬼崎フリートの各艇

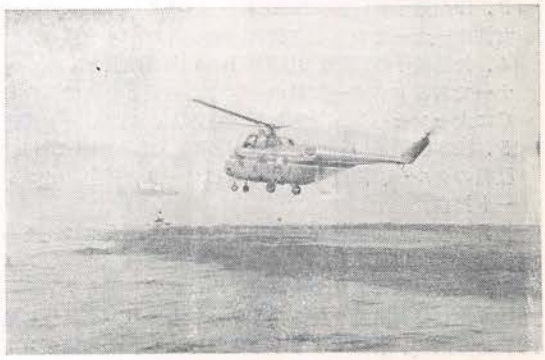
来年も是非より充実した訓練を実施しようということで締括られた。

訓練終了後は32艇が港内に集結、再び船飾を施し伊良湖港内一杯をいろどる、東海支部発足以来の壮観となり。６時半からのパーティーもＮＯＲＣ会長を初め、当海域クルーザー乗り仲間が160名一堂に会して、支部長挨拶から初まりチタⅢ、ガメツヤへの記念品贈呈、レース表彰、訓練艇への褒賞、就中冷い海中へ飛びこんだ両君へはその犠牲的精神に報いて特にウヰスキーが贈られ、全員の拍手をあびた。続いて各艇の自己紹介では思い思いの趣向で楽しい交歓となり、メンバー特別出演の余興演奏も折込まれて時間の経つのも忘れ、９時近くまで歓がつくされた。

パーティー終了後も泊地では賑かな花火の音と光の交錯する中で、ヨット仲間の語いは夜の更けるのを忘れさせ、本当に充実した楽しい１日を皆しみじみ味っていた様子であったが、明日の帰港に備えて各艇12時前には静かな眠りに就き、今日の一日を終った。

（東海支部・海上訓練担当委員長）

ヘリコプターによる吊上げ訓練、後方「みやかぜ」は消火銃による放水訓練



〈関東支部〉

ポイントレース・サマーシリーズ報告

――女性上位の8月レース――

「竜王」・「VEGA Ⅲ」総合優勝

NORC関東支部主催の相模湾ポイントレースのサマーシリーズは計40隻の参加の下に、如何にもたのしい華やかな話題をふりまいて行われた。シリーズ通算成績は別表の通りで、クラスⅠ、Ⅱ、Ⅲ総合では竜王が圧倒的な強さで他を寄せつけず完勝、ヌクラスⅥ、ⅤではVEGA Ⅲが安定した走りで、たくみに他艇の間隙を縫って優勝を飾った。

今回のサマーシリーズのトピックスを、マスコミ週刊誌風に挙げて見ると、

1.「**女は度胸ヨ**」――ボインになぎ倒されたヨットマン達。オール美女乗組みで完全優勝したAOLELE Ⅳと、アッと驚くNORCの先生方。

2.「**整形手術で見事なカムバック**」――ヒース英首相に張り合う慎太郎議員のスサマジイ執念、老嬢 CONTESSA Ⅱをよみがえらせる。

3.「**経済大国日本**――ヨット界も大型化」――クラスⅠ時代の幕明け。ROCINANTE ⅡとKAY-7のファーストホーム争い。

4.「**その名も宿酔号**」――銀座マダムのヨット操縦法。

初の女性オーナー・スキッパーの新艇HUNGOVER Ⅱ。冗談はさておき、以下各レースをふり返ると、

7月レース（7/7）

台風接近による荒天予想と、避難漁船の集中により油壺フリートが全艇出場不能となった為、中止。

8月レース（8/9）　コースⅢ　葉山廻り

快晴、波静かでNE7～8mの絶好のレースコンディション。当日の最大の話題はNORC始まって以来、いや世界オーシャンレース界でも稀有なるオール女性乗組みによるAOLELE Ⅳの登場であった。メンバーは全NORCより、何よりも美貌を第一条件として選抜された下記の6名であるが、その結果、全員がNORCメンバーで6名中5名迄が小型船舶操縦士免許保持者と云う、世にもまれなる強力メンバーの誕生となった次第。

スキッパー：小林則子嬢(通称 COB)　KELONIA Ⅱの主力メンバーで、ヨット歴5年、NORCの公式計測員。

クルー：1．重田恵子嬢(通称 KAY)　LOTUSのケイ子チャンと云えば油壺のアイドルとして有名。フォアデッキを担当。

2．村上由美嬢(通称 YOU & ME)　SAMOA Ⅱのマスコット。将来は世界一周をねらう可憐なウーマンパワー。セールトリム担当。

3．田畑道子嬢(通称 MEEK)　AOLELE Ⅳの唯一の女性オーナーでやさしさ抜群。デッキウォッチ担当。

4．矢島純子嬢(通称 JUNE BAY)　BAHANのオーナーであるドクター矢島の令嬢で、潮気と色気でNORCに大センセーションを起している人。ジブシート担当。

5．松本仁子嬢(通称 MATCHER)　OLYMPUS Ⅲで歴戦のクルー、海陸で色々のエピソードの持主。メンシート担当。

当月の参加艇30隻皆がこの史上まれなる美女クルーを一目拝まんと、AOLELE Ⅳの側にぴったりくっつき、スタートラインは別の意味で大混乱。中にはシートもティラーも放り出して双眼鏡を持ち出す助平艇もあり、全艇暫し足を止める間に、女性軍するすると抜け出し、この儘ダントツで走るわ走るわ。我に帰った男性猛省連がそうはさせじと必死に食い下るもその差は開く一方、マーク迄に大型艇3隻に抜かれただけ。廻航後のスピンワークもケイコチャン、ユミチャンのあざやかなデッキワークで見事な花を開かせ快走、又快走。遂にクラスⅣ、Ⅴでは他艇を大きく引き離し、ファーストホーム総合優勝！　女性上位もここに究まれりの感。大体AOLELEと云うフネはベテラン男性軍が走らせても2位以上に入ったことがないのに、所要時間も3時間を大巾に割る快記録、一体どうなってんのと、いぶかるNORCの先生方への答は……「ヨットは顔で走るものなのヨ！」とのこと。

尚、このレースにはROCINANTE Ⅲ、KAY-7がクラスⅠでエントリー、日本のヨット界にもクラスⅠのレースが行われることになり、これは又一つのエポックだったが、如何せんオール女性艇登場の前には華やかさを失い、どうにか先にフィニッシュしてクラスⅠの面目は保ったものの、やはり女には頭の上らぬグループの一員となった次第。

9月レース（9/6）コースⅡ、江の島・葉山廻り

うす曇り、SE3～5m。このレースには、8月女性軍に完敗し、嘲笑われた村本デザイナーが、プロの面目にかけても雪辱せんものと、自らクラスⅣに身を落し、MANDARIN DUCKで挑戦、見事クラスⅣ、Ⅴ総合優勝を為し遂げたが、この気配を察した女性軍は早くも勝ち逃げを決め込みAOLELE Ⅳはも抜けのから、軟弱男性クルーが乗っていた為、艇本来の走りしか見せず10位に転落、逃げた女房の遺産を見事食いつぶしていた。嗚呼、男は愛嬌！

所がここに、今一つ女は度胸のフネが現われた。その名もHUNG OVER Ⅱ 宿酔号！　銀座は「せんだん」なるバーの勝美マダムがオーナースキッパーで乗り込むヴァンデシュタット設計の新鋭24呎艇。初陣にしてはよく走り、クラスⅤ3位に食い込んだ。日本も大したもんだ。クラスⅠ、Ⅱ、Ⅲでは前月に引き続き竜王が圧倒的に強く両レースに1位ダントツでシリーズカップを奪った。更に注目されたのはセールNo.188の老嬢CONTESSA Ⅱの見事なカムバックである。マストをアルミにし、フッドのセールを新調、Jを伸ばし、キールを削り大改造のかいあって、シリーズ通算クラス1位、総合2位は賞讃に価しよう。

その昔、ポイントレースと云えばCONTESSAとLOTUSのファーストホーム、優勝争いで湧いたものだが……LOTUSも又、いつの日か奇跡のカンバックならんものか？ それにしても9月レースにはVAGO、RED SHARKの両フォーミュラーボートが出場せず、何とも寂しかった。一説によると、女の子に敗けるのが嫌で敬遠したとかのウワサもある。クラスⅣ、Ⅴは前回1、2位のAOLELE Ⅳ、KELONIA Ⅱの不振で大混戦となり、その間隙を縫ったVEGA Ⅲがシリーズ総合優勝杯を手に入れた。これぞまさに漁夫の利か？

以上、誠にフザケたレース結果報告となり、お叱りの面もあろうが、真夏のハプニングとしてお許し願いたい。

尚、EMEは8月レースに出場したが、TCF未算出であった為、不参加扱いとし、8月の成績から省いた点、御諒承頂きたい。

（向井七男也）

レース報告　〈関東支部〉

第15回神子元島レース報告

—「ミスサンバード」・「HOLIDAY」総合優勝—

10月9日22：00、小網代湾口に設置したスタートラインを季節はずれのS～SWの風が吹きぬけている。まずクラスⅣがスタート、時報に遅れること2、3秒で「ホリデイ」がトップに飛び出し、その風上を「つばき」がコミッティボートぎりぎりにスタート、「竜飛」がその後をぴったりとつけて、まずは好スタートを切ったクラスⅣの6隻は湾口出口の風の振れに一瞬とまどいを見せながら暗い海の中へと吸い込まれていった。30分遅れのクラスⅠ、Ⅱ、Ⅲ　のスタートはさすが迫力を感じさせた。最近のNORCにおいて艇の大型化をこの神子元島レースが如実に物語ってくれる。その数18隻、3、4の新艇を除いていずれもレース常連ばかりである。クラスⅠの艇中には遠来の「チタⅢ」をむかえ、その走りっぷりは全艇の注目を集めていた。

風上より「竜王」がトップスタート。やはりさすが。その風下半艇身遅れで「チタⅢ」がスタート、きれいな走りを見せながら続々とスタートラインを横切って行く。どうしたわけか「RED SHARK」のスタートが少々悪い。「ロシナンテⅢ」を最後にスタート終了。スターンライトを点点と暗い海に光らせながら、やがて視界からその姿を消していった。東京では雨が降りだしたとのニュースに下り坂の天候を案じながらコミッティボートをシーボニアに移す。

10日18：00日没前にフィニッシュラインを設置、ウォッチに入る。20：30頃スタート時より点灯していたマスト縦列の赤灯の電池が気になり、その取替え作業中、湾口より発光信号を認める。信じられないような気持で全員フィニッシュ艇を注目、それを「ミスサンバード」と認めるまでの時間はあまりに短かかった。猛烈な波切り音をたてながら多少オーバーセールをしたのかコミッティボートぎりぎりにリーチングでフィニッシュ、「ファーストホーム」コミッティの「メルジーネ」のクルー一同デッキに立ち、その快走ぶりに拍手を送った。テンポの早いレース運びを予想させる「サンバード」のフィニッシュにウォッチは湾口に目を凝らす。しかしその後「チタⅢ」のフィニッシュまでの約四時間半は除々に「サンバード」の快走ぶりを物語ってくれるだけであった。01：40「チタⅢ」の発光信号を認め緑灯を大きく振る。遠来の「チタⅢ」は期待通りの走りを示し、不馴れな相模湾を見事に走り切った。「チタⅢ」クルーと言葉を交しているひまもなく湾口より発光信号が送られてくる。一瞬「竜王」と思ったのはあながち的はずれではなかった筈。しかし発光信号は“600”ではなかった。船体は赤「RED SHARK」だ。クラス○の2艇のフィニッシュのあと息をつく間もなくフィニッシュした「RED SHARK」の快走ぶりは“さすが”の一語につきる思いだ。クラスⅢのミニマムに近い「RED SHARK」は堂々クラス優勝の地位を固めた。艇長の関根氏の“後続艇は認められなかった”の報告通り、4着の「竜王」のフィニッシュまで約6時間あった。この大差は神子元島廻航までをいかに走ったかがこの差を生んだものと考えられる。トップ艇から「RED SHARK」までは神子元島廻航後20：00前後のSWからN～NEのシフトまでスピンで相当の距離を走っている「サンバード」にいたっては城ヶ島沖までほぼ直線を走っている。SからNへのシフトがこの大差の原因だと思う。「竜王」以下はおそらく往復スピンをあげる機会はなかっただろう。その後「智美」が機走で入り、リタイヤーを告げる。ジブセール全部を破損しレースを断念したとのこと。よいところを走っていただけにクル全員残念そうであった。続いて「コンテッサⅡ」すぐに「飛車角Ⅱ」「ホリディ」「くろしおⅡ」とフィニッシュ。「ホリディ」はクラスⅣでトップフィニッシュである。健斗。「潮風Ⅲ」「はやまる」「雲仙」「アオレレⅣ」続々とフィニッシュ「祇王Ⅱ」もレース初出場ながら堂々の完走。「はやまる」は復路フォアスティのターンバックルを破損、苦戦した模様、「竜飛」のリタイヤーで残る艇も数少なくなった。「チャダマス」「つばき」「妙義Ⅲ」とフィニッシュ、残るは「ロシナンテ」「マイグレーター」「はやとり」「ノアノア」の四艇で、すでに14：00を過ぎてしまった。当初テンポの早いレース運びを予想していた我々は少々見当はずれ、タイムリミットまで時間も少なくなってきた。それにしても「ロシナンデ」のフィニッシュの遅れが気になる。15：00頃「はやとり」フィニッシュ、30分遅れで「マイグレーター」大分遅れはしたがフィニッシュライン通過後のメインセール降下等のクルーのきびきびした動きが印象的であった。とうとう18：00タイムリミットが来た。未だ「ノアノア」「ロシナンデ」の連絡なし。18：30一応フィニッシュラインを徹去し、陸上本部のシーボニアのハーバー事務所へもどる。「ロシナンデ」「ノアノア」を気にしながらすっかり暗くなった沖を岸壁よりウォッチ、まもなく「ロシナンデ」が機走で帰って来る。残るは「ノアノア」のみ、確認のため油壺ボートサービスに連絡、20：00現在未入港の返事。一応レース終了を保安部に報告し、一艇の未入港を告げる。帰港次第再度連絡を約し報告を終る。

24：00まで油壺に確認の電話を数回入れたがとうとう入港の返事なし。12日02：00頃「ノアノア」の入港を確認、胸をなでおろす思いで、さっそく保安部に連絡、全艇入港を告げる。

多少混乱を後に残しはしたが、神子元島レースも無事終了した。我々「メルジーネ」にとってはじめてのコミッティが神子元島レースということで大分荷が重かったが、どうやら務めを終えた。

（帆走委員長武部喜一）

レースレポート　〈関東支部〉

第3回初島レース報告

――「竜王」・「ホリディ」総合優勝――

●日　時　10月24～25日

●参加艇　29隻

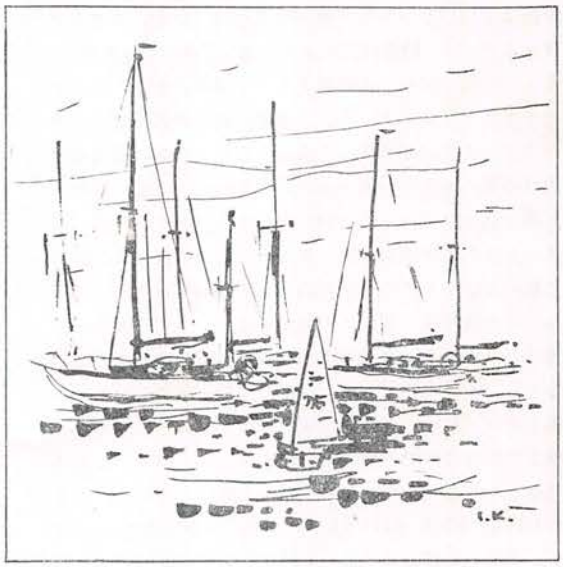
1970年第3回初島レースは10月24日～25日、小網代～初島（反時計廻り）～小網代（約48浬）のコースで、参加艇は29隻（クラスⅡⅢ11、クラスⅣⅤ18）でおこなわれました。クラスⅡⅢでは「竜王」がさすがに強く、所用時間8時間59分49秒で総合優勝し、クラスⅣⅤにおいては「ホリディ」が、11時間57分10秒で総合優勝を飾りました。

秋の初島レースは今年で3年連続、ノーレースといわく付のレースとなっていましたが、今年のレースはまずまずのレース展開となり、我々コミッティとしても気楽な内にレースの完了を見ました。

10月23日、レース運営の打合せの為、シーボニアに電話連絡をした時には2～3日前頃より、昼間はS、夜間はNの風5～6mとベスト・コンディションとの事で今年は例年になく早いレース展開を予想しておりました。

10月24日、12時10分、仕事を終え、大急ぎでシーボニアへ向い、途中、車の中で弁当を使うと云った、あわただしさ。3時丁度、シーボニア着、即ちレース申し込みにはいりました。この時にはSよりの5～6mの良いコンディションでしたが、夕暮になるにつれ風の振れも大きくなり18：00、クラスⅣⅤのスタート時刻には風の方向も不安定で風速も1～2mと最悪のスタート、コンディションとなりました。それでも時折り、そよそよと来る風を捕んでコミッティボートの近くを一団となって大謀網と岸との間を抜けて行きました。クラスⅣⅤの艇団が油壺の大謀網にかかる頃、クラスⅡⅢのスタートとなり、これ又、弱風の悪条件の中をクラスⅣⅤ艇団の後に続く形となりました。中でもコミッティボートの上手よりスタート・ラインに向った「竜王」がいい位置でスタートを切り、先行のいい風を捕え、走抜けて行きました。この頃クラスⅣⅤの艇団は油壺の大謀網近くで内5～6艇は大謀網に捕った様子（後の報告では脱出に1時間も要した艇もあった。）

スタート時点の悪条件も沖へ出ればSEの、まずまずの風で風向も軽い上りで、視界はよく、全艇初島灯台の確認は早く、コースも初島一直線となっていました。この様な早いペースのレース展開も初島約1浬近辺より、風振の兆候と思われる、風の弱まりに悩まされ、わずかな艇位置の差により走る艇も有れば止ってしまう艇もあると云った状況になりました。この様な状況下で「コンテッサⅡ」はうまく風を捕え、いち早く初島灯台をMAG0°に確認。この時点では各レース艇の距離は大差なく、帰路のコースに勝敗が持込れる事になりました。初島近辺は地形的にも風の振れの多い所ですが今回のレースでは特に初島廻航の時点



が風のS～Nへの変化時刻にあたり各レース艇を悩ませた様です。01：00頃より、本格的なNの風が吹き始めました。しかし地域によって風の振れがあり、ほんの4～500mの位置の違いによって、スピンの上る艇と軽い上りになる艇が見られました。段々、風も強まり7～8mのNの風に乗って、レースの展開は早く、03時27分49秒「竜王」がファーストホーム、続いて「コンテッサⅡ」「潮風」「雲仙」と続々ゴール。初島近辺で各レース艇が風の振れに悩まされていた頃（01：00）コミッティボートの位置する小網代湾口においても岸勤のウォッチの所では雨が降っていてもコミッティ・ボートの「ミスサンバード」の海上では星空と云った状況で、レース海上の風の振れを予想していました。次々ゴールする艇の確認やら、TCFの計算等に追われている内に夜明となり、風も弱まり、先行艇と後続艇の差はひらくばかりで、最終艇の「サンゴⅡ」のゴール（07時48分30秒）頃には今にも本降りの雨空となりましたが、なんとか雨の前にレースの完了を見ました。今回のレースを終え、感じます事は各レース艇とも、よくなれているはずの小網代湾口スタートであるにも拘わらず5～6隻もの艇が油壺の大謀網に捕り脱出に苦しんだ事です。よく知っている海面においても勝敗の為に、安全とか漁民の迷惑等が忘れられている点です。この問題はNORCの各レースのスタートが小網代湾口を利用する点に関係するものと思われますが現状の持廻りコミッティー制度ではコミッティーの苦労を考えますと変る事も不可能かとも思われます。いずれにしてもコミッティーを引受ける事は大変な仕事。

（第3回初島レース・コミッティー　石合幸彦）

〈東海支部〉 8/6 鳥羽レース報告

――「SANRU」綜合優勝――

毎年このレースは、鳥羽パールレースの参加艇及び応援艇の廻航に便利な様に、パールレース直前の日曜日に行われ、東海支部で最も古く、支部結成以前から行われていた。

今年の参加艇は、LUNAⅢ・うずしお・ケリーダ・しゃち・SANARU・グランパスの6艇である。

本部艇としてCHITAⅢがエスコートし、スタート、フィニッシュを受持った。

00:00 スタート　各艇一せいにスタート、うずしおのみ、潮流に流されスタートラインに上りきれず、廻り直して、スタートが少し遅れる。

風速約5m/sec. SSE 各艇クロスぎりぎりで良くすべっている。

02:00 野間崎通過後、風速が落ち風向もしばしば変る。CHITAⅢは機走に切り換え、フィニッシュラ　ンへ急ぐ。

05:00 フィニッシュラインを設定。強い雨と霧の為視界はあまり良くない。

風速0.5～1m/sec. 潮流強し。

06:00 レース艇、浮島の北側に発見するも、無風と、逆潮の為、フィニッシュラインに近づけず。

08:00 SANARU・グランパス続いて、フィニッシュ。フィニッシュ時刻は別表の通り。

12:00 タイムリミット。LUNAⅢ棄権し、機走で、本部艇に報告に来る。

このレースは、毎年同じ様な気象で無風とガスになやまされ、（スタートから、桃取水道入口迄は軽い艇がよくすべり）、又桃取水道からフィニッシュライン迄の複雑な潮流をうまくつかんだ艇が、勝っている。レース結果から見ると、レーティングの小さな艇、（SANARU・グランパスはブルーウォーターⅡ）、正式レーティングが出ていない為、ハンディキャップを加えた仮レーティング）から順に入っている。微風レースのTCFの決め方は検討の要があると思う。　（鳥羽レース帆走委員長　丹羽由昌）

鳥羽レース成績表（8/6）

艇　名	艇　長	T.C.F.	E.T.	CT.	順　位
SANARU	中村亨司	0.707	8.04.22	5.42.27	①
GRANPUS	松原正勝	0.707	8.18.31	5.52.27	②
しゃち	柴田俊彦	0.701	9.57.18	6.58.43	③
QERIDA	服部　弘	0.698	10.50.45	7.33.14	④
うずしお	岡山　滋	0.712	11.05.22	7.58.21	⑤
LUNAⅡ	浅井欣也	0.720	DNF		

〈内海支部〉 第13回紀伊水道レース報告

――「白峰Ⅱ」綜合優勝――

昭和45年度第13回紀伊水道レースは和歌山県和歌浦港～徳島県牟岐大島～新和歌浦港の往復レース（約120浬）として昭和45年10月9日23時より昭和45年10月12日17時の間で行われた。レース状況はスタート後牟岐大島迄は断続的な微風によるゆっくりしたレース展開で全艇（7艇）がいつも確認出来る位置にあった。大島手前において風が落ち、逆潮流の関係もあって、全艇殆んど並び、10月10日18時頃より島寄りの艇から、大島回航（反時計）が始まり、陸地寄りの艇も19時頃迄に艇をを終えた。10月11日1時頃迄微風が続き、全艇お互に確認出来る位置にあったが1時過より前線の通過に伴う北東12～15mの強風豪雨になり、5時過ぎ迄吹き荒れた。各艇その時より思い思いのレース展開となり、6時頃和歌浦湾入口沖の島側から西方向へ順次、グルームスティック、アルテミス、寅丸、白峰Ⅱの4艇が並んで、この頃から風が落ち微風のレースとなり、フィニッシュラインに風上側よりアルテミス、ブルームスティック、寅丸と並び後方に白峰Ⅱが位置し、そのまま風上側よりアルテミス、ブルームスティックが8時20分前後同時フィニッシュ9時過ぎ寅丸フィニッシュ、9時30分過白峰Ⅱがフィニッシュした。又、後続艇の甲龍Ⅰ、甲龍Ⅱは13時前後、シーライフは10月12日2時過ぎにフィニッシュし、無事レースは終了した。最後にレース洋上連絡艇としてレースに伴走したはねしかの森田艇長及乗組員に深く感謝いたします。

レース結果は下記の通りです。

艇　名	アルテミス	ブルームスティック	寅　丸	白峰Ⅱ	甲龍Ⅱ	甲龍Ⅰ	シーライフ
T. C. F	0.778	0.738	0.790	0.701	0.705	0.683	0.750
着　順	1	1	3	4	5	6	7
所要時間	33.20.30	33.20.30	34.17.00	34.42.16	37.55.30	38.04.12	51.10.00
修正時間	25.56	24.36	27.05	24.19	26.43	25.59	38.22
修正順位	3	2	6	1	5	4	7

註　アルテミス、ブルームスティックの着順決定はレース報告書の各自計測時間をもとにして、相手艇に対する状況報告書と後続艇、寅丸、白峰Ⅱの状況報告書の提出をもとめ、蔭山レース委員長、レース委員協議の結果報告をレース部長谷川が裁断したものである。

神子元島レースの奮戦記

——NOA-NOAのギャレイにて——

佐宗初美

ヨットレースの栄光は勿論優勝艇のスキッパーのものであるが、同じくラストホームの艇のコック長のものでもあることは古来大レースの伝統であると聞いている。かくて「NOA-NOA」のコック長たる私に、NORCだよりの貴重な誌面を埋める光栄が与えられ、以下45年度神子元レース奮戦記を綴らせていただくことになった。

初めに乗員を紹介させていただこう。スキッパーは富田さん。コンピューターのエンジニアー、27年に進水した「仰秀」の初代艇長、未だ乗っているのだからヨットとは余程良いものらしい。チョーサーの渡辺さんはエレクトロニクス屋、丁度1ヶ月後に結婚式だというのに、何の因果かかき入れ時の貴重な連休を波とたわむれるつもりらしい。

サンバンは笠原君、化学容品のライニングが仕事だが船のかぶりはあまり気にならないようだ。時化でも風でも同じ顔をして良く食べる。矢部君はナビゲーターを引受ける。研究所勤めの学究だ。彼の画く天気図は不思議なことに等圧線がクロスしない。

最後に私、パーサー兼コック長、色は黒いが正真正明のミスである。調理科学とか称し、専ら人様のベロを使っての生体実験に血道をあげているが、我と思わん方はどうか「NOA-NOA」のギャレイへ。

“夏の海とはちがうんだから、未だ未だ基本が足りないよ”と最初出場を渋っていた艇長を説きふせて、今5人の10の目が桁柄の上弦の月の光もとどかぬスタートラインの彼方の暗い西の水平線をみつめている。”OK！OK！そのままどんどん走れ！”景気の良いのは艇長の声ばかり、スタートラインを横切りかけた艇は岬のブランケットでジブに裏風を受けてやむなくタック、これを2回繰返し、結局の所10時におくれること6分、さえないスタート。でも後を見れば結構続く船もいる。“いいよ、いいよ、先は長いんだ。”

航路を西へとってひた走る。「NOA-NOA」が一番快調なのはいつもスタート直後のごぼうぬき。同じ角度で並んで走る限りは結構船令10年のオールドミスもいい線をいくのに帰って来るといつもテールエンドを孤独に走っているというのはどうしたものだろう。

何はともあれ腹が空ってはいくさができない。早速私の出番だ。唯一の所帯持ち、艇長の奥さんの手になるおにぎりで最初は簡単に済ます。小柄なおにぎりが一つ一つていねいにアルミフォイルでくるんである。のぼりコースでの炊事は困難だ。やむなくイージー味曾汁をぬるいジャーのお湯で解いて給したがこれはいただけない。胸がやける。一、二分はボイルしたかった。

位置を失なわないよう、風早と初島の燈台を確認してタック、沖へ向う。午前2時、風早の方位205°、風はあいかわらず南西5～6m。しかしこのコースで以外と大きなリーウエイを確認、又タックしてとも角伊豆の海岸へとりつくことにする。朝まで退屈な航海が続く。フォグスルのパイプバースで寝ようとするが、ピッチングの度にドスンドスンと頭にひびく、コックピットのウォッチの話し声、時時起る　シバの音、カタカタ鳴るハリヤードの音、聞くともなく、寝るともなくしている内にあたりがとても静かになる。朝風ぎだ。こうしてはいられない。稼ぎ時とばかり御飯炊きにかかる。白いとぎ汁を船尾にひき、お鍋に水加減してプロパンに火をつける。一寸調子が悪い。御飯の煮える匂いが胸におもくるしい。

外は快晴、青い空にピンクの朝雲が映える。針路上に青い天城が、そして中腹に白い川奈ホテルが望見される。艇名は確認できないが、上手に、後に、前に合計数隻の帆影が浮かんでいる。

今度は本格的にねぎとお豆腐の味噌汁だ。平和な家庭の匂いがする。本物の塗りのお椀を使っている。プラスティックスの容器は惨めでさえない。コーヒーカップだって真白な陶器、ウィスキーはカットグラスでと、「NOA-NOA」は格調が高い。食事の時はタキシードでも着用してもらおうかしら。

ついでに積込んだ主な食料は、お米、通常の保存食、インスタント食、野菜、果物、玉子等がチャートテーブルの下に、ギャレイの戸棚には調味料各種、コーヒー、紅茶、ココア、日本茶にアルコール類、船のストレージは大型のジャーに牛肉、とうふ、しらたき、ビールにコーラ等が冷蔵されている。しけが続いたらサラミにチーズをかじる予定でコックピットに。又非番の人はバースにくつろいでポンドケーキやビスケット等を食べてもらう。これはまくらもとに。

10日午後空は青いが風はあなり強い。あいかわらずの南西だ。ショートタックで伊豆の岸添いに刻明に一つ一つ温泉町を数えて行く。同じようなコースを取っている4隻が見える。一番近いのは「はやとり」と判断されるが、他は判らない。ずっと沖、差木地の方向に懸命に上って行く帆影が見える。

ナビゲーターの報告によると前線がおりて来るという。関東はもう降っているらしい。成程北東はるかの水平線に積乱雲が湧いている。ガヤガヤと議論するが、衆議一決した所では我々の神子元回航と前線の通過が略同時刻になる模様だ。先のつらさを見通してか、或いは温泉にでもつかりに来た船か、北東へ帰投と思われる帆が認められる。

爪木に差掛かった頃はもう日もとっぷり暮れて、爪木の燈台と神子元の燈台が会話を楽しんでいるように交互に明滅している。南西の風はすっかりなりをひそめて、二度目の風だ。北東にかわればもうチャンスは無い。吹く前にもう一度御飯を炊いておこう。

笠原君がヘルムに、私がリーサイドウォッチそろそろ交代という頃“来た！来た！来た！来た！”どさっと北東の風が束になってやって来た。“僕はね、いつも人のためにつくすのさ、風と呼んでおいてあげたよ。”気の効いたせりふを残してティラーをはなれる笠原君。私がヘルムに、艇長がリーサイドを補佐してくれる。ゼノアを観音にしてもらって快走だ。“舵を大きく、もっと、もっと”艇長に言われるまでもない。船のブームを八双に構えてすきあらば

ワイルドジャイブをとねらっている。

いよいよ神子元が近付いた。上りにそなえて2ポイントリーフ、ジブも一挙にNo.3におとす。島に近付くと心強いことに意外と沢山のヨットが集っている。

大きなヨールが幽霊船のように巨体をゆすりながら西の方へ上って行った。ジャイブして神子元をデッドノースに見たのが0時30分、苦しい上りだ。強い雨がバウに砕ける波と一緒になって、目に口に容赦なくたたきつけて来る。艇は苦しみ、前進を渋る。とにかく責任の時間を夢中で耐えた。ティラーを艇長に渡し、キャビンに逃げ込む。どうせ眠れないにせよしばし休息だ。

朝5時過ぎか、ポートホールがほの青い。どの辺だろうか。艇内は惨々たるもの、濡れた衣類が或いは七の時に。或いはへの字の形でフロアーに張りつめいている。ガタガタしているのはナンバンがエンジンと格斗しているのだ。どうしたのかしら。やがてカタカタとエンジンの音。デッキに出る。昨夜の格斗を物語るように、メンスルの上のバランの所がほころびて強風にピロピロとはためいている。二本目のバランは折れ、そしてまあ初めて雨に濡れたニューセールの惨めさ、延びたリーチ、ブームは負け犬の尾っぽみたいに船の中心線まで低くひきこまれている。金輪際上らなくなってしまったとのこと。

波と一諸に稲取港に躍りこむ。アンカーレッコ。チョーサーはクォーターバースにもぐりこんでふて寝をきめこむ。とにかくも少し快適に暮せるようにキャビンを片附けなければ。艇長は一刻も早く出港をというが、もはやその言い方には迫力がない。それぞれ判ってます。打上げパーティー用に仕込んだスキ焼の材料一切、ここで放出だ。ともかく手早く用意、やがてジュージューとキャビン一杯に肉とねぎの煮えるにおいがたちこめる。熱いしらたきを玉子につけると褐色と脂がチリチリと浮上る。コミティーの皆様ご免なさい。

使い慣れた古セールに取替え、乗員一同上から下まで乾いた衣類でこざっぱりし、稲取を出たのは8時を大分廻っていた。初島までは伊豆の岸寄りと、初島から真直油壺へ、結構苦しい上りコースを16時間余かかってホームポートへたどり着いたのは12日の午前1時だった。

後日の話であるが、近頃とみに下腹の出て来た艇長はこの航海で3Kやせる目標を樹てていたそうである。しかし優勝の夢とともにこれは果たすことが出来なかった。

関東支部・油壺フリートの巻

――美男ぞろいの油壺――

小網代、シーボニア、油壺の3フリートがNORCの中枢を占めているわけだが、モーターボートなら五分位で往き来の出来る同一水域内のこの三隣接フリートの夫々が、全く独立した性格をもっているのは誠に面白い現象である。即ちNORCレース派精鋭でガッチリ固め原始共産的(?)共同体制を誇る小網代、キラ星の如く金持ちヨットが集結し万事にアカ抜けのしたシーボニアに対し、ピンからキリ迄の変なフネがメッタヤタラと舫っている様で、それでいて独特のモヤモヤーッとした混然一体の一つのムードを作り上げているのが油壺である。纜りがないと云えばこのフリート程纜りのない所も珍しいだろう。第一、油壺に一体何杯のヨットがあるのかと云うことすら、誰も正確には判らないのだから全く以って変なフリートと云える。今迄殆んどフリートミーティング等やったことがないし、ましてやフリート運営規則なんて云うメンドウなものは、作ろうと云い出す者すらいない。

それでいて、このフリート程フネとフネとの交流が和気アイアイで盛んな所も関東では珍らしい。オーナーやクルー同志が、あちこちのフネをハシゴ酒して廻り、しまいにはどれが自分のフネだか判らなくなって誰かのフネに文字通りチンボツしてしまうと云う風景が土曜の深夜にしばしば見られる。外人が舷側から平気で立ち小便をしているかと思うと、そのすぐ隣りで釣れたばかりの魚を早速天ぷらにしたりしているのも壺ならでは見られぬ光景だろう。

まとまりのない油壺が、逆に非常に良いムードでまとまっているのは、全員が本当にヨットを、海を、そして何よりも油壺の美しい自然を愛していると云う心のつながり以外の何物でもない。そしてこのことを誰よりも良く理解し、漠とした統率力と人格で、このまとまりのないフリートをうまくまとめているのがフリートキャプテンでロータス(通称ロタ公)のオーナー金原さんである。やたらクルーをギャーギャーどなりつけたり、レーシングタクティクスのオバケみたいな人間が名スキッパーとは云えないのと同じことが、フリートキャプテンにも云え様が、この意味で金原さんこそ日本一の名フリートキャプテンと信じている。

この様に書いていくと、如何にも油壺フリートは軟弱ブルーウォーター派ぞろいで、レースにはそっぽを向いている様に思われ勝ちで、事実他のフリートからはその様な陰口をされているらしいが、ドッコイ、例えば今年のポイントレース・スプリングシリーズの成績を見て頂きたい。クラスII 1位智美、クラスIV 1位アオレレ、クラスV 1位サモアと残念ながらクラスIIIの優勝杯丈をシーボニアに持っていかれた以外は、皆油壺のフネではないか！　エヘン！

ヨットを走らせるのは、フネでも、金でもウデでも、まして頭でもない、顔！左様フェイスが最大の要素である……と云う油壺フリートの持論がここに見事に立証されていることになる。そう云えばこのフリートにはハンサムが多い。それはそうだろう、文字通り「油壺から抜け出した水もしたたる」良い男ばかりなのだから。油壺万才！

(向井 記)

新登録艇の紹介

セールNo.、艇名、リグ、LOA×LWL×B×d、オーナー氏名、フリート及びオーナーのコメントの順です。

〔関東支部〕

363 鈴鹿 スループ 24′—6″×20′—0″×7′—9″×4′—7½″ 高木湖心 元「PINK PEARL」のオーナー変更により改名再登録

◎その昔、鈴鹿山脈より吹きおろす風でヨットを習ったので、私にとっては最も懐しい呼名。

◎セーリングとフィッシングの2本立てで海のレジャーを満喫すること。

669 CORVATSCH スループ 7.49×6.10×2.30×1.55 加藤忠男 ブルーウォーター 24クラス **シーボニア**

◎仕事上、スイスに年3～4回行く、そのスイス領にある山の名前をとった。想出深い出来ごとがあったかも…。

◎ヨットマンらしいヨットマンになりたい。艇、クルーともにヨット仲間から好かれるようになりたい。

◎クルーは

スキッパー　後藤良国（31才）
ナビゲーター　浅野英武（26才）
ボースン　坂　紘一（25才）

学生時代からの船キチぞろい。2～3年湖気が抜けているが、みんな気の良い奴ばかり。

◎新参者なので、現在、NORCへの要望などと大それたものはありません。よろしくご指導下さい。

1002 朝風 スループ 27′—8″×21′—0″×8′—1″×5′—3″ 朝比奈新 C.R.HOLMAN氏設計 **シーボニア**

1043 I SAY（アイ セイ） 7.49×6.10×2.30×1.40 平山一政 ブルーウォーター 24クラス（小坪）

1049 MASTEYNA II スループ 31′—0″×9′—3″×5′—9″ 由水雅通 渡辺修治氏設計 **油壺**

1051 OCEANID II スループ 6.50×5.40×2.04×1.40 田山英世 ブルーウォーター 21クラス **須磨**

1053 ATHENA 立原一弥

◎ギリシャ神話の槍を手に、甲をかぶった完全武装の若く美しい、戦に勝利を約束された女神の名をとった。

◎艇名にATHENAをつけたように、なるべくレース中心にヨットを楽しみたい。

◎クルーとしては、現在岩倉親倶君、河上憲司君を予定、岩倉君はウィンチを必要としない程の力持、河上君はB21のベテランである。

1056 SUBSONICA—II スループ 31′—0′×24′—02′×9′—03″×5′—09″ 原貞夫 **油壺**

◎航空関係の職業に従事している同好会「空艇会」所属のI世に続いて建造されたため同名II世とした。

◎抱負としては、NORCレースに参加してみたい。

I世は独自の設計でやや重量がかさみすぎた傾向があるため、II世はProduction Yachtとしてレースに活躍したい。

◎クルーの顔ぶれは

I世は広島県の宮島で建造後、油壺まで38年に回航後20フィート艇としては、八丈島往復などをやり、潮気あふれる活躍をしている者ばかりである。

1059 粒粒（りゅうりゅう） スループ 6.50×5.40×2.04×1.40 中川公正 ブルーウォーター 21クラス **諸磯**

◎われら全て貧乏にて粒粒辛苦の末買入れたものであり、又クルーザーとしてはまさにささやかなるツブの如きもの故かく名付けた。

◎年代に合せて買い替えて行く所存、即ち30代にして30呎、40代にして40呎なるが如し。

◎クルーとしては

平田亜幸……全然ヨットの知識なし。
熊谷浩、田中秀明
　Y15にてカワイコちゃんとのみ遊びしヒマ人
中川公正は、オーナーとしてクルーとなり果て、他の3人のやらざる炊事、掃除など全てを担当し、一番船に弱くヘドロを吐く男。

◎要望としては

1.会費を安くすること。
2.金をかけた艇は勝つに決っているので所得ランクに応じたレーティング係数を負荷すべし。
3.講習会を頻繁に開いて啓蒙して貰いたい。

1061 あかめ 7.16×5.80×2.33×1.50 飯田正已 武市俊氏設計になるも艇名のゆかりは？ **江の島**

1062 凪 スループ 6.71×5.02×2.06×1.40 藤江克己 横山晃氏設計の自作艇 **諸磯**

◎艇名をつけるなら漢字で一字。帆掛船で凪ほど仕末の悪いものはない。しかし、風が吹いていれば凪になる可能性があるが、凪の状態では次に風は必ず吹いてくる。従って艇が「凪」であれば風も期待できよう。

◎これからは、ともかく沢山走り、多くの経験を積みたい。

1063 MAREADO V スループ 7.40×5.80×2.40×1.20 上原一夫 ベルギーのミッシェル・ビゴアン氏設計FRP艇 **佐島**

1065 POLARIS I スループ 7.49×6.10×2.30×1.55 魚住孝男 ブルーウォーター 24クラス 江の島

◎北辰ヨットクラブ（北辰電気）の北辰→北極星→POLARIS

◎当面安全運航に心掛け、それからレースの参加を考えたい。

◎クルーとしては

千葉大「くろしお」のOB土田君
東北大のOB横山君
東工大のOB佐鳥君

〈失敗談〉「KELONIA Ⅱ」オンザロック反省の記

――基本的作業をおこたるな――

「KELOIA Ⅱ」が今年の第1回初島レースで、フィニッシュラインまで100m程の網代崎の岩礁に座礁して、自力離礁できず、レースを断念したことをご存知の方も多いと思います。これはその失敗談です。

経過。2月、3月のポイントレースにあまり振るわなかったこともあって、シーズン幕あけの初島レースに我々は多少の期待をもってのぞんだ。レースはNE7～10m/sec.前後の風の中で、18：00スタート、トップグループで21：42初島回航、ポートタックのクローズホールドで小網代を目指し、早朝03：00頃のフィニッシュが予想できた。メンスルワンポイントリーフ、N02ジブで比較的切上り良く02：30頃小網代湾口のWSW3M位の所に来ていた。暗い夜ではあったが前方に大型艇の尾灯がいくつかみえており、安心感から我々は正確な位置を出すことをおこたっていた。バウのワッチが何か叫んだ。大謀網だ！　ぎりぎりでこれをかわす。諸磯沖の網と確認、フィニッシュまじか、皆緊張する。バウワッチを2名にする。すぐ前方に赤いハルの艇がみえる。我々はここでタッキングしたが、網代崎沖の大謀網に当ることを恐れてすぐポートタックにもどる。網代崎と大謀網との間を通ってフィニッシュしようと網代崎に接近する。前方、網代崎の近くに我々と同じコースを通って帆走中の艇が確認された（これは後で「AOLELE Ⅱ」と分った）。これよりも風上側（大謀網側）を通ってフィニッシュ態勢に移ったつもりだった。ここでこの艇よりも沖寄りを通るという安心感があったことと、フィニッシュ予告の発光信号をおこなっていたために岸に注意を向けなかったのがまずかった。「AOLELE Ⅱ」に近づくにつれこうこうと燈火をつけて艇体が異常にヒールしているのがわかった。あ！前の艇は座礁している。これは危い。と思った瞬間だった。ガツン、ズズズ……という音と共に座礁してしまった。座礁直後艇を風に立ててタッキングすれば離礁が可能だったとも思う（「AOLELE Ⅱ」はこうしてうまく離礁した）が、離礁のための処置、その他のまずさもあって、次第に風下の岸の方へ流され、加えて潮が引きはじめたため自力で離礁できなくなり、ついにコミッティーとシーボニアの助力を求め早朝離礁することができた。艇自体の損傷はFRP製のため大したことはなかったが、我々の受けた心身のショックは大きかった。

座礁の原因として考えられることは、①ホームポートのため我々すべてが知っているつもりで位置確認などの基本的作業をおこたったこと、②他艇の航路についてゆくという安心感もあったこと、その艇が座礁していることもあることを知らなければならない、③風下側、セールのかげのため岸への注意が行き届かなかったこと、むしろ風上側の大謀網の方に注意を向けていたこと。④フィニッシュ予告の発光信号に気をとられていたこと。

事故以来、我々は対策として次のようなことを実行している。①航法の原則にもどり、夜間岸に近づくときは必ず位置確認を数回おこなうこと、②小網代湾の夜間入港訓練をおこなうこと、③小網代近辺の精しいチャートを作る。大謀網の位置も時々測定して記入、補正する。

事故というものは乗組員の心のすきをねらうように突然おそいかかり、連鎖反応的にズルズルと悪い方向へ、悪い方向へと流れていってしまうことを痛感しました。あれが網代崎だったから良かったようなものの、初島や亀城礁で、あるいは式根島などで救助が望めない場所だったら一体どうなっていただろうか、今でも冷汗の出る思いです。むしろ、あの程度の事故で済んだのだから、海が我々に与えてくれた又とない教訓だとみて深く反省している次第です。

その後我々は一時はレース出場を当分あきらめて謹慎しようと考えておりましたが、NORCの皆様のはげましもあり、大島レースから復帰させていただきました。事故当時、皆様にご心配をおかけし、また親切な激励の言葉をいただいたりいろいろありがとうございました。ここにこの紙面をかりてお礼申しあげます。以上、我々の苦い経験がNORCの皆様に多少なりとも参考になればさいわいです。皆様の安全な航海を祈ります。「KELONIA Ⅱ」

（大谷正彦）

事務局移転ならびに人事異動について

――東海支部より――

平素は当協会の事業活動につき何かとご支援をいただき有難く厚くお礼申しあげます。

さてこのたび当支部は9月10日付下記のように事務局の移転ならびに人事の異動を行いましたのでご通知いたします。

記

（新）住所　〒468　名古屋市昭和区天日町八事裏山
　　電話　名古屋(052)832-1151内線235
　　夜間　名古屋(052)981-7495(長尾総務委員宅)
　　名古屋(052)622-0157(角田支部長宅)
　事務担当者　総務委員　長尾好泰(新任)

（旧）住所　〒460　名古屋市中区錦三丁目
　　東海銀行本店内

なお旧支部総務委員（事務長）佐藤充弘、旧支部総務委員（事務局員）奥村道子はそれぞれ支部海事普及委員に就任いたしました。

会員及び登録艇の現状

（12月10日現在）

	特別会員	正会員	準会員	TOTAL	舟艇登録
関東支部	208	668	41	917	209
東海支部	35	101	1	137	39
京都支部	15	31	1	47	17
内海支部	34	108	0	142	37
西内海支部	14	28	—	42	14
TOTAL	306	936	43	1285	316

〈会員の声〉

正しい海事思想の普及を

——海はレースだけのものでない——

最近どうも、海に行く機会が、少なくなった。レースもやりたいし、のんびり流すのもいい。行きたいと思いながら、さて、思うにまかせないのである。

我が家の家族構成は、いつの間にか5人になり、長男がどうやらクルーとして、使えるかなあ、というほど育つのは育ったけれど、末のチビに手がかかって仕方がない。

たまの日曜日、オヤジだけがノコノコ出かけられない事情も、色々と生れてくる。潮だらけの衣類も、カミサンの顔色をみながら、洗濯たのむのも億劫だ。

NORCの名簿を、パラパラとめくってみると、会員番号が4ケタになり、更に頭に年度の数字が入るようになった。懐しい人の名前もみえるが、大部分は知らない人である。そして、二代目ジュニアの台頭がある。時代は廻っているんだな、とつくづく思うが、自分が年をとったとは、ムキになって思わない。若い奴等に負けるもんか、と思う。

最近、私が海に出にくくなった事情を、色々と考えてみるが、どうやら、家族5人ともなれば、オヤジ1人だけが愉しむ年代は過ぎて、どうしても海に出たければ、手足まといの女子供も、海のとりこに巻きこむに、しくはない、という結論がでてくるのである。

当然、苛酷なレースは無理である。できるだけ快的なキャビンと、できるだけ楽な操船、安全性等を満たしてくれる船が欲しくなってくる。局端にいうならば、浮ぶハウス・ボートがあって、（この根拠地は別に走る必要はない）女子供が海に馴れ親しみ、海をエンジョイし、海の素晴しさに開眼して、腰の重くなったオヤジを、家族が海に引っ張り出すようにならなければ、本当じゃないのだろうか。グッピーやOPが、セーリングの手ほどきをしてくれるだろうし、やがては、家族みんなでクルージングを望むようになり、ほんの数年後には、オヤジをスキッパーに戴いたレーサーが出現すれば理想的といえるだろう。オヤジは、もう、クルージングに行きたいとか、レースに出たいとか、ぼやく必要はなくなってくる。休みの日を待ちかねて、家族全員で、喜々として海に出かけるようになるに違いない。

空前のブームといわれるヨット界の、急拠手をつけねばならない仕事は、正しい海事思想の普及である。現役ヨット・マンの責任は、一番手近な恋人・女房・子供達を海に誘って一人前のヨット乗りに育てあげよりよき理解と協力を得ることである。呵々愉快哉。真夏の夜の寝言じみたことであるが、そろそろ会員番号の古い方々には、思い当る点、なきにしもあらずではないだろうか。

囲りを見廻してみると、この説に近いフネも、ないわけではない。然し、殆んど例外なく、NORCに所属せず、むしろ、批判的であったりする。そして、お互いに、相反目する面はなかっただろうか。

私は、レースすることは、安全のために最もよい方法だと思っている。クルーとして鍛えられ、フネの性能を知り、あらゆる海象にぶっつかる。そんな歴戦の強者が、タライのようなフネに乗ってこそ、安心できるのではないだろうか。どんなタイプのヨットであっても、安全備品検査を受けるためだけのためにも、ヨットと名がつけばNORCに所属すべきだし、できるだけ人もフネもレースに出場すべきである。そして、次代の強者が生れてくるのだと思う。

レース一辺倒のヨットを悪いというのではないし、海外に出かけることも、大変結構なことだ。

だが、もう子供の生れたヨット乗りは、その母親も、その子供も、教育してやって欲しいと思う。〈白いヨット〉という絵本が生れたことも必然なのだろう。広い広い海が、レースだけのものでないことを、改めて認識し、せめて我が家だけでも、家族全部がヨット乗りになるよう、努力しようと考えている。妄言多謝

（0061）

◇事務局だより◇　——年会費を納めて下さい——

本部事務局もガラリとメンバーが替って、何かと不慣れのため会員の皆さんにご不満の点も多々あることと深くお詫び申し上げます。しかし、何と申しましても、本部として一番困るのは、皆さんの中に、中々年会費を納めて下さらない方が多いことであります。ご存じのように、会の運営は皆さんから納めていただく年会費によって、すべての経費を賄っているのでありまして、年度末に支払うものばかりでなく、毎月毎月支払らわなければならない経費がいろいろあるのであります。たとえば、職員の給与を初めとし、家賃とか光熱費、印刷費や郵送料（馬鹿にならない金額です）など幾多の経費がかかります。

従って、年度末には皆さんから納入願った年会費は予算上の諸支払いを済ませますとゼロになることになっておりますので、若し会費未納の方が沢山ありますと、その分だけ予算的に赤字ができ、ニッチもサッチもいかないことになるのでありますので、会員の皆さんのNORCに対する唯一の義務である年会費の納入につきましては、今年度当初の総会において規定いたしましたように、遅くとも4月末日までには必ず全会員の方に、ご納入願いたいのが事務局の心からなるお願いでございます。　（高村理事）

関東支部・サマーシリーズ成績表

クラス	セールNo.	艇名	RIG	TCF	8月ポイント・レース クラス別 順位	得点	III～V混合 順位	得点	9月ポイント・レース クラス別 順位	得点	III～V混合 順位	得点	サマーシリーズ・レース クラス別 順位	得点	III～V混合 順位	得点
I	667	K-7	S	.839	1	23	6	9	1	23	6	9	1	46	5	18
〃	670	ロシナンテIII	Y	.856	2	19	16	2	2	11	15	2	2	30	18	4
II	188	コンテッサII	S	.775	2	19	3	16	1	23	2	19	1	42	2	35
〃	358	潮風III	S	.781	4	13	8	6	2	19	11	3	3	32	12	9
〃	606	智 美	S	.778	3	16	7	7	3	16	12	2	2	32	11	9
〃	640	VAGO	S	.783	1	23	2	19	—	—	—	—	4	23	4	19
〃	355	ロータス	Y	.791	5	11	10	4	—	—	—	—	5	11	17	4
III	600	竜 王	S	.768	1	23	1	23	1	23	1	23	1	46	1	46
〃	617	足 柄	S	.741	3	16	5	11	2	19	3	16	2	35	3	27
〃	636	CARINA II	S	.757	6	9	12	2	3	16	4	13	3	25	6	15
〃	622	雲 仙	S	.754	—	—	—	—	5	11	7	7	9	11	13	7
〃	614	はやまる	S	.746	—	—	—	—	4	13	5	11	7	13	8	11
〃	613	くろしおII	S	.751	4	13	9	5	7	7	9	5	5	20	9	10
〃	1039	TOSHI II	S	.746	5	11	11	3	6	9	8	6	4	20	10	9
〃	1038	妙義II	S	.747	7	7	13	2	8	6	10	4	8	13	14	6
〃	396	さちかぜ	S	.737	9	5	15	2	9	5	13	2	10	10	15	4
〃	197	あさひ	S	.747	8	6	14	2	10	4	14	2	11	10	16	4
〃	367	TILDE	S	.739	—	—	—	—	11	3	16	2	13	3	19	2
〃	616	RED SHARK	S	.742	2	19	4	12	—	—	—	—	6	19	7	13
〃	357	チブチューンIX	S	.749	10	4	17	2	—	—	—	—	12	4	20	2
IV	635	つばき	S	.736	—	—	—	—	3	16	4	4	6	16	9	13
〃	672	マンガリンダック	S	.707	4	13	11	3	1	23	1	1	2	36	4	26
〃	650	VEGA II	S	.706	2	19	4	13	2	19	3	3	1	38	1	29
〃	677	アオレレIV	S	.726	1	23	1	23	5	11	10	10	3	34	2	27
〃	629	竜 飛	S	.707	—	—	—	—	4	13	9	9	7	13	14	5
〃	625	AIOLA II	S	.735	3	16	6	9	7	7	15	15	4	23	10	11
〃	178	NOA-NOA	S	.719	5	11	12	2	8	6	16	16	5	17	15	4
〃	630	JOUR	S	.703	6	9	13	2	—	—	—	—	8	9	19	2
V	1012	バガンチェスキー	S	.706	3	16	5	11	6	9	11	11	5	25	8	14
〃	1037	HOLIDAY	S	.703	4	13	7	7	1	23	2	2	1	36	3	26
〃	642	KELONIA II	S	.702	1	23	2	19	5	11	8	8	2	34	5	25
〃	1044	HANG OVER	S	.698	—	—	—	—	3	16	6	6	6	16	11	9
〃	609	彩 雲	S	.699	2	19	3	16	4	13	7	7	3	32	6	23
〃	644	そよかぜ	S	.685	5	11	8	6	2	19	5	5	4	30	7	17
〃	1046	SIMPLON II	S	.693	7	7	10	4	7	7	12	12	8	14	13	6
〃	619	ひ ろ	S	.703	6	9	9	5	8	6	13	13	7	15	12	7
〃	618	だぼはぜII	S	.701	—	—	—	—	9	5	14	14	9	5	17	2
〃	654	BARBALOSSA	S	.700	—	—	—	—	10	4	17	17	10	4	16	2
〃	1009	EME	S	.703	—	—	—	—	11	3	18	18	11	3	18	2
〃	315	OLYMPUS III	S	.700		—		—	—	—	—	—	12	1	20	1

関東支部・第3回初島レース成績表(10/24～25)

クラス	セールNo.	艇名	RIG	TCF	所要時間	修正時間	艇長	クラス別 順位	得点	III～V混合 順位	得点
II	188	CONTESSA II	S	.775	09.16.38	25883	石 川 昇	1		②	
〃	358	潮風III	S	.781	09.30.04	26713	竹 下 政 彦	2		5	
〃	673	CHICADAMS	S	.816	10.09.01	29817	竹 脇 義 果	3		8	
〃	338	MIGRA TOY	K	.807	12.43.43	36979	RYAN BERKELY	4		11	
III	600	竜 王	S	.768	08.57.49	24783	陳 秀 雄	1		①	
〃	622	雲 仙	S	.754	09.35.09	26020	今 田 秀 夫	2		③	
〃	616	RED SHARK	S	.740	09.50.51	26234	関 根 久	3		4	
〃	613	くろしおII	S	.751	09.54.28	26787	渡 辺 芳 夫	4		6	
〃	610	飛車角II	S	.762	10.02.50	27522	周 東 英 郎	5		7	
〃	1038	妙義II	S	.747	11.33.55	31131	八 木 進	6		9	
〃	157	BLUE RIBBON	Y	.758	11.36.13	31684	大 島 富士夫	7		10	
IV	1037	HOLIDAY	S	.707	10.23.03	26460	根 本 紀 一	1		①	
〃	672	MANDARIN DUCK	S	.707	11.55.24	30307	富 永 幸太郎	2		8	
〃	629	龍 飛	S	.707	12.07.30	30861	岩 瀬 弘 一	3		10	
〃	677	AOLELE IV	S	.726	12.02.40	31439	島 氏 英 雄	4		13	
〃	312	はやとり	S	.707	13.01.39	33148	大 山 勝 次	5		16	
〃	630	JOUL	S	.708	13.17.34	33861	鈴 木 弥 彦	6		17	
V	1018	昌 代	S	.702	10.37.46	26873	野 沢 定 義	1		②	
〃	608	明日香	S	.702	10.53.47	27557	加 藤 栄 美	2		③	
〃	642	KELONIA	S	.702	11.59.43	30384	大 谷 正 彦	6		7	
〃	009	彩 雲	S	.639	11.13.34	28269	窪 田 良 之	3		4	
〃	1644	HANG-OVER II	S	.698	11.53.10	29837	渡 辺 卓 保	4		5	
〃	044	そよかぜ	S	.685	12.11.43	30014	倉 本 昌 治	5		6	
〃	1646	SIMPLON II	S	.693	12.11.10	30442	武 村 洋 一	7		9	
〃	081	しょうがく坊	S	.701	12.26.15	31367	小 谷 洋 一	9		12	
〃	1012	BUCCANC-THESKII	S	.706	12.08.45	30870	大 沢 浩 吉	8		11	
〃	618	だぼはぜ	S	.702	12.56.23	32701	土 肥 丈 志	10		14	
〃	1020	はげたか	S	.700	13.03.41	32985	加 藤 圭 介	11		15	
〃	1070	SONGO	S	.691	13.48.30	34370	島 飼 俊 宏	12		18	

関東支部・神子元島レース成績表(10/ 9 ～12)

クラス		艇名	TCF.	オーナー	スキッパー	着時間	所要時間	修正時間	クラス順位	総合順位
I	236	チタIII	.842	丹 羽 由 昌	丹 羽 由 昌	1/11 01:40:19	22:10:19	22:52:43	1	3
II	380	ミス・サンバード	.826	山 崎 達 光	石 合 幸 彦	1/10 20:55:45	24:25:45	18:31:35	1	1
〃	188	コンテッサII	.776	石 原 慎太郎	石 原 慎太郎	1/11 08:59:38	36:29:38	26:46:02	2	7
〃	358	潮風III	.781	竹 下 政 彦	竹 下 政 彦	〃 11:04:28	37:34:28	28:33:52	3	12
〃	673	CHICADAMAS	.816	竹 脇 無 我	竹 脇 義 果	〃 12:25:16	31:55:16	30:56:37	4	14
〃	308	MIGRATOR	.807	RYAN BERKELY	RYAN BERKELY	〃 15:34:21	47:04:21	33:03:43	5	15
III	616	RED SHARK	.740	関 根 久	関 根 久	1/11 01:50:26	23:20:26	20:10:55	1	2
〃	600	竜 王	.768	陳 秀 雄	陳 秀 雄	〃 08:06:25	35:36:25	25:48:36	2	4
〃	613	くろしおII	.751	大 浜 博 利	広 橋 修 三	〃 09:30:25	34:00:25	26:17:24	3	5
〃	610	飛車角II	.762	名 和 幸 夫	周 東 英 卿	〃 09:03:51	36:33:51	26:20:16	4	6
〃	614	はやまる	.746	立 松 泰 雄	武 市 俊	〃 11:20:27	36:50:27	27:28:59	5	8
〃	622	雲 仙	.754	反 田 邦 治	今 関 秀 夫	〃 11:22:26	37:52:23	27:48:10	6	9
〃	1110	祇王II	.753	山 田 金 作	山 田 茂 雄	〃 11:53:48	38:23:48	28:09:34	7	10
〃	367	TILDE	.739	J. JANSEN	J. JANSEN	〃 13:06:51	39:36:51	28:32:09	8	11
〃	1038	妙義II	.747	八 木 進	八 木 進	〃 13:32:01	35:02:01	29:09:29	9	13
IV	1037	HOLIDAY	.707	根 本 豊	根 本 紀 一	1/11 09:29:28	37:29:28	25:05:31	1	1
〃	677	AOLELE	.726	向 井 七男也	島 氏 英 雄	〃 11:33:11	38:33:11	27:15:48	2	2
〃	635	つばき	.736	釜 口 昌 久	星 野 久 也	〃 12:40:38	30:40:38	28:27:59	3	3
〃	312	はやとり	.707	草 間 信 二	名 当 英 臣	〃 14:59:42	40:59:42	28:59:00	4	4
I	670	ロシナンテ	.852	大 口 一 英	大 口 真 司	D.N.F.	—	—	—	—
II	606	智 美	.778	津 野 守 邦	津 野 守 邦	〃	—	—	—	—
III	617	足 柄	.741	福 永 昭	福 永 昭	〃	—	—	—	—
III	629	竜 飛	.707	岩 瀬 弘 一	岩 瀬 弘 一	〃	—	—	—	—
IV	178	NOA NOA	.719	富 田 潔	富 田 潔	〃	—	—	—	—